

シュンギク (野菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機 構分類 コード	人 畜 毒 性	使 用 時 期 (日 数)	使 用 回 数	う ど ん こ 病	葉 枯 病	炭 疽 病	ア	コ	ア	ハ	マ	オ	ヨ	ハ	シ	ネ	ハ
								ブ	ナ	ザ	モ	メ	オ	ト	ス	ロ	キ	ク
								ラ	ジ	ミ	グ	ハ	オ	ウ	モ	イ	キ	ク
								ム	ラ	ウ	リ	モ	タ	ム	ン	チ	リ	ク
								シ	ミ	マ	バ	グ	バ	シ	ヨ	モ	ム	ク
								類	類	類	類	類	類	類	類	類	類	類
アミスター20FL	11		1	2			◎											
スクレアFL	11		1	3			◎											
アフエットFL	7		7	3		◎												
ストロビーFL	11		14	3			◎											
<b>サンクリスタル乳</b>	-		1	-	◎			◎	◎									◎
アディオオン乳	3A		21	2				◎										◎
ガードベイトA粒	3A		*c	2														◎
アルバリン顆溶 スタークル顆溶	4A		1	2				◎										
アルバリン粒 スタークル粒	4A		*a *b	1							◎	◎						
ダントツ溶	4A		3	3				◎			◎	◎						
ダントツ粒	4A		*b	1				◎			◎	◎						
ベストガード粒	4A		*a	1				◎	◎			◎						
			3	1				◎	◎			◎						
モスピラン顆溶	4A	劇	3	2				◎										
ディアナSC	5		1	2						◎	◎	◎	◎		◎			◎
アフーム乳	6		7	2						◎	◎	◎				◎		
コテツFL	13	劇	14	2											◎			
カスケード乳	15		7	2						◎		◎		◎	◎			
トリガード液	17		7	2							◎	◎						
ウララDF	29		1	2				◎										
グレーシア乳	30		7	2											◎	◎		
ブレオFL	UN		1	2											◎	◎		

\*a:定植時 \*b:播種時 \*c:生育初期

シュンギク

## シュンギク (野菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
べと病	播種前 生育初期～ 生育期	1. 排水をよくする。また過度の灌水は控える。 2. 密植、肥切れをさける。 3. 被害株は抜きとり処分する。 4. 発病株での採種、播種をさける。	春と秋に発生し、特に9～11月に多湿状態が続くと多発する。 分生胞子の発芽適温は15～20℃、多湿条件で発生しやすい。
炭疽病	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アミスター20フロアブル 2000倍 ストロビーフロアブル 3000倍	
てんぐ 巢病	生育期	1. 発病株は早期に抜きとる。 2. 周囲の雑草を除去する。	ファイトプラズマによる。ヨコバイ類が伝搬する。
モザイク病		1. 発病株は早期に抜きとり土中深く埋める。 2. アブラムシを防除する。	
アブラムシ類	生育期	・次の薬剤のいずれかを散布する。 オレート液剤* 100倍 モスピラン顆粒水溶剤 8000倍	*野菜類での登録
コナジラミ類	定植時および生育期	・次の薬剤を散布する。 ベストガード粒剤 9kg/10a	定植時は植溝処理土壌混和、生育期は株元処理。
アザミウマ類	生育期	・次の薬剤のいずれかを散布する。 アファーム乳剤 2000倍 カスケード乳剤 2000～4000倍	
ハモグリバエ類	生育期	・次の薬剤を散布する。 トリガード液剤 1000倍	
ハスモンヨトウ	生育期	・次の薬剤のいずれかを散布する。 エコマスターBT* 1000倍 カスケード乳剤 2000～4000倍	*野菜類での登録
その他の病害虫		菌核病	